（様式１）

自　己　評　価　表（令和５年度）

愛媛県立内子高等学校小田分校

33

教育方針	地域社会と一体となって、校訓「克己」を基に、社会の形成者としての自覚を持たせ、生徒一人一人の能力・適性・進路に応じた指導とその実現に努め、心身ともに健全でたくましく生きる人間の育成を期す。	重点目標	１　元気に学校生活に取り組み、生き生きと輝く生徒を育てる。 ２　より高い確かな学力を身に付けさせ、自己教育力を育てる。 ３　規範意識・自己統制力・対人関係力・共生の心を育てる。 ４　進路希望を実現させるとともに、勤労観・職業観を育てる。 ５　たくましい体力を身に付け、心身ともに健康な生徒を育てる。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	地域との結び付きを大切にした魅力と活力ある教育活動の推進	全ての生徒が生き生きと活動し、学校生活に充実感を持つことができる魅力ある学校づくりを目指す。	B	学校生活が充実していると感じている生徒の割合は、昨年度よりも５ポイント増加し81%であった。また、特色ある教育活動の実施については、生徒の92%が肯定的に受け止めている。学校の伝統や校風を大切にし、地域と一体となった教育活動を展開することができた。	生徒一人一人に目を配り、生徒が目的を持って学校生活を送ることができるよう、教員間で情報を共有し、学年団を中心に適切な支援を行う。 教育活動の更なる魅力化を図り、地域と協働しながら生徒の主体的な活動となるよう支援する。
		地域住民との交流活動や異校種との交流学習を積極的に行い、豊かな人間性を育む。また、学校設定教科「探究」や起業家教育プログラムを中心とした諸活動において、外部人材の活用や協働学習を推進し、社会で活躍するグローカル人材の育成に努める。	A	「起業家教育プログラム」や学校設定教科「探究」の授業を中心に、年間通して地域連携活動や異校種との交流活動を積極的に実施した。 また、外部人材の活用をオンライン型と対面型の授業を併用することで、魅力ある教育活動を実践することができた。	地域の伝統行事や各種イベントへの参加協力については、学校行事や部活動、学業等への支障の有無を考慮しつつ、できるだけ様々な生徒が関わることができるように精選・工夫していきたい。 地元の小田小学校・小田中学校との交流活動や合同授業を増やし、小田分校の魅力的な教育活動を知ってもらうことで、小田分校への進学率を高めたい。
	開かれた学校づくり	ＳＮＳの効果的な活用を図りながら、生徒の学校生活の様子をホームページに毎日掲載するなど、積極的な情報発信に努める。	B	学校魅力化推進に係る研究集会や各種コンテストに、生徒・教員ともに積極的に参加・応募し、学校の魅力向上と発信に努めた。 学校の公式ホームページについて、見やすさや必要な情報提供にこだわり大幅にリニューアルした。また、O-DIARYを毎日更新し、写真や作成動画を多く掲載することで、小田分校生のリアルな姿を発信することができた。	学校公式ホームページに続き、公式Instagramや公式YouTubeに関しても、今後更に活用することで小田分校の情報発信に努めたい。 県外中学生に対する学校魅力発信手段として、「地域みらい留学」におけるオンライン説明会（合同・個別）の回数や内容の充実を図り、県外入学生の更なる増加を目指したい。
		年間10日程度の教育活動公開日を設定するとともに、参加者数の増加を図る。	A	運動会、小田校祭、入学式、卒業式及び授業公開日６日を合わせて年間10日間の教育活動公開日を設け、保護者や地域の方々に積極的に学校の様子を見ていただいた。 特に小田校祭においては、今年度は地域と一体となった取組により、より多くの方々に生徒の様子を知っていただくことができた。	本校の教育活動を県内外の多くの中学生や保護者の方々に知っていただけるよう、校内外を問わず生徒の活動や発表を積極的に行い発信していく。具体的には、地域の広報を活用し、小田地区全戸に案内を配布したり、案内状をさらに分かりやすく工夫したりするなど、参加者の増加を図る。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	家庭学習の充実	生徒が主体的に家庭学習に取り組み、毎日平均３時間以上の学習時間を確保するよう、各教科における指導法の工夫・改善、ＩＣＴ機器の効果的な活用に取り組む。 Ａ：180分以上　Ｂ：179～150分 Ｃ：149～120分　Ｄ：119～90分 Ｅ：89分以下	D	家庭学習時間が１学期平常日は約118分、２学期平常日が約75分であった。昨年度と比較すると大きく減少し、目標の３時間には届かなかった。また、52%の生徒が家庭での学習習慣が身に付いていないと自己分析している。 課題の作成や配付・回収方法は、教科・科目の特性を踏まえ受講生徒の実態に合うように工夫したり、ＩＣＴ機器を活用した家庭での学習方法を指導したものの、十分な定着には至らなかった。	引き続き、各教科で計画的に課題を与えるとともに、その評価・点検を徹底していく。家庭での学習につながる授業の展開及び自主的な予習・復習が習慣化するような指導を今後とも継続していく。 また、生徒一人に１台の端末が貸与されているので、効果的なＩＣＴ機器の活用を目指して、研究を重ねるとともに生徒自身に技術・技能の習得も併せてできるよう今後も指導していく。
	教科指導の充実	ＩＣＴ機器を積極的に活用し、生徒のやる気を引き出す指導の充実を図り、85%以上の生徒が「分かる授業」であると実感できるよう、授業評価の充実を図り、工夫・改善に取り組む。 Ａ：85%以上　Ｂ：84～70% Ｃ：69～55%　Ｄ：54～40% Ｅ：39%以下	A	90%の生徒が「分かる授業となるよう先生が工夫している」と評価した。公開授業で参観していただいた保護者の95%の方から「授業の工夫がなされている」との評価を得た。 授業におけるＩＣＴ機器の活用では全教員が自己研修を行ったり、遠隔授業の研修を受講・実践したりするとともに、ＩＣＴ機器活用の頻度や技術の向上が図られてきている。	授業アンケートの「やる気を引き出す授業でしたか」という集計結果と合わせて分析すると、おおむね良好であると思われるが、学習習慣の定着も含めまだまだ課題はある。各教科において授業評価の結果をしっかりと確認・分析し、指導方法や使用教材の研究に努めるなど今後とも改善に取り組む。また、ＩＣＴ機器の効果的な活用方法について、今後とも研修に取り組んでいく。
		習熟度別学習や個別指導を徹底するなど、一人一人を大切にしたきめ細かな教科指導の実践に取り組む。	A	94%の生徒、94%の保護者が「一人一人を大切にした授業が実施されている」とし、98%の生徒、94%の保護者が「先生は個別指導も熱心に取り組んでいる」としており、高い評価を維持している。	引き続き、習熟度別講座編成や幅広い選択科目開設などに努め、少人数指導を充実させながら、生徒の能力や進路等に応じた個別指導の徹底を図る。
	言語活動の充実	教科指導や教科外指導を通じて、生徒が主体的・協働的に学び、思考力や判断力、表現力等を身に付けるよう取り組む。	A	各種行事の実施後に感想をレポートにまとめたり、報告会で学習した内容を発表したりするなど言語活動の充実を図ることができている。また、起業家教育プログラムの「オダカン」や「ODAKO STUDY KISSA」等においてアクティブラーニングの推進に努めており、多くの生徒が協働的な活動を通して主体的に活動し、思考力や表現力を身に付けることができていると考える。	全ての教員が共通理解の下、地域の方や企業の方との協働的な活動も積極的に取り入れながら、様々な教育活動の機会を今後とも設けていき、個々の生徒の生きる力の育成につなげ、言語活動の充実に努める。
	人権意識の高揚・人間としての在り方生き方を考える教育の充実	生徒が人権問題について主体的に考え、互いの人権を尊重して行動できるよう取り組む。 人間としての在り方生き方を考えさせ、学校生活における様々な場面での指導の充実を図る。生徒の自尊感情を育み自己肯定感を高めることができる取組を実施する。	B	人権・同和教育ホームルーム活動では、生徒が意見を出し合い練り合う授業を通して、人権意識を高めることができた。 また、各教科において人権教育の視点に立った年間指導計画を確認した。 生徒人権委員会による月間目標の設定や行事等での生徒発表を通して、全校生徒に人権について考えてもらう契機とした。	引き続き、人権・同和教育ホームルーム活動の充実を図り、人権意識の高揚に努める。また、公開授業後の意見交換会に参加していただける保護者の方が例年少ないため、より多くの保護者・地域の方の御意見・御感想をいただける形（アンケート回答等）を検討する。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣を確立させるために家庭との連携を深め、安易な遅刻・欠席を防ぐとともに、生徒に対する細やかな指導や校内における教育相談体制の充実に努め、一年間の皆勤率60%以上を目指す。 Ａ：60%以上　Ｂ：59～50% Ｃ：49～40%　Ｄ：39～30% Ｅ：29%以下	D	皆勤率は、30.9%（１月末現在）であった。基本的な生活習慣の確立が不十分な生徒も存在し、また精神的な不安感から登校が難しい生徒も存在しており、進路変更をした生徒もいたが、生徒の実情に応じた丁寧な指導を粘り強く行った結果、生活習慣の改善が見られた生徒もいた。また、教育相談を有効に活用し、生徒の状況が上向きになった生徒もいた。	引き続き、生徒把握に努め、家庭との連携をより一層密にし、生徒の基本的生活習慣の確立に努めたい。また教育相談体制を密にし、生徒の学校生活を充実したものになるように努めたい。その結果として皆勤率60%以上の達成を目指したい。
		学校・家庭での生活全般において、自律的・積極的な生き方を身に付けるため、規範意識の向上に努め、学校や社会のルールやマナーを遵守し、自己管理ができるさわやかな生徒を育てる。	B	規範意識を高めるために、集会やホームルーム活動などで学校や社会のルールを認識させ、人としてまた、高校生として好ましい言動が実践できるよう規律指導と教育相談的指導の両輪で取り組んだ。結果、問題行動による特別指導はなかった。	引き続き、規律指導と教育相談的な指導のバランスを適切に取りながら細やかな指導を継続し、何事も前向きに取り組むことで自立する生徒を育成していきたい。
	特別活動の充実	部活動の参加率を高め、適切な練習時間や休養日を設定し、生徒一人一人が部活動等に意欲的に取り組み充実感を味わい人間性の向上に努めるとともに、県大会出場35%以上を目指す。 Ａ：35%以上　Ｂ：34～25% Ｃ：24～15%　Ｄ：14～５% Ｅ：５%以下	A	生徒全員が運動部または文化部へ所属し、日々意欲的で効率的な活動を行った。運動部の県大会出場は、剣道部、バレーボール部、ソフトテニス部、野球部であり、43名中24名（56%）が県大会出場を果たした。文化部では、地域共生部が県大会を勝ち抜き、全国商業高等学校英語スピーチコンテスト全国大会に出場するなど活躍した。	少人数ならではの指導の行き届きやすさをメリットとし、生徒がより積極的、意欲的に活動できるように環境整備等も含めて支援・指導を進めていきたい。
	健康・安全指導の徹底	交通事故０件を目標に安全指導の徹底を図り、交通ルールの遵守、マナーの向上に努めるとともに、自他の命を大切にできる生徒を育成する。 Ａ：０件　Ｂ：１件 Ｃ：２件　Ｄ：３件 Ｅ：４件以上	A	警察に届け出なければならない交通事故は０件であった。交通安全集会、交通安全講話、登校指導、高校生交通サミット参加、交通茶屋の実施など生徒の交通委員を中心とした熱心な取組等により交通安全の意識や交通マナーの向上につなげることができた。	交通事故は、自分が気を付けていても起きる可能性があるため、徒歩、自転車、バイク、バス通学生全てにおいて、広い視野と予測力を向上させ、交通安全に対する意識とマナー向上に努めていくため、引き続き、地道な交通安全啓発指導を行っていきたい。
		健康・安全・防災等についての講話や教室、指導、実習等を年間30回以上実施し、生徒が自立的に安心・安全な生活できる能力や資質を培う。 Ａ：30回以上　Ｂ：29～20回 Ｃ：19～10回　Ｄ：９～１回 Ｅ：０回	A	健康・安全・防災等に関する取組は合計58回実施し、ホームルーム活動、教科、学校行事等で、具体的に学習・活動する機会を提供することができた。特に訓練や実習については、真面目に前向きに取り組む活動を行うことができた。結果として、大きな事故や事件に遭遇することはなかった。また、生徒の心身の健康の保持増進を図るため、健康相談・保健指導等を数多く行うことができた。	健康面では生徒の心身の健康の増進を図るため、より充実した情報を提供する。安全面では、安全点検を徹底させる。防災については、訓練したことが実際に役立つような活動を増やしていく。引き続き、様々な場面において、実践的な取組ができるよう最新の情報を入手し、生徒の実態や世の中の情勢にならって改善や工夫を重ね、安全な生活ができる能力や資質を高めていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった　B:かなりの成果があった　C:一応の成果があった　D:あまり成果がなかった　E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	キャリア教育の充実	職場見学やインターンシップ、講演会、ガイダンス、学年指導等のキャリア教育を通じて、望ましい勤労観・職業観を育成するとともに、進路意識の高揚を図る。また、キャリアプランニングの推進を図り、各種活動において各自の目標と振り返りができるように、キャリアパスポートの活用に努める。	B	職場見学やインターンシップ、外部講師を招いての面接指導や各種ガイダンス、校内で実施する学年指導など、各学年に応じたキャリア教育を実施し、活動内容を充実させることができた。キャリアパスポートの作成を通して、生徒の体験や活動等の振り返りができるように促した。	生徒の希望や適性に沿い、勤労観・職業観が育成されるよう、各種ガイダンスや学年指導などのキャリア教育の充実に努めていきたい。 キャリアパスポートの有効活用について、キャリアプランニング推進委員会の中で改めて検討していく。
	個に応じた指導の充実	各種模試（学びの基礎診断を含む）及び補習を計画的に実施し、生徒の学力向上を目指す。また、進路に関する講演会やガイダンスを通して、進路選択に対し幅広い視野を持たせる指導を行う。さらに、個々の進路希望に応じた面接及び志望理由書等の指導を行う。大学進学を希望する生徒に対しては、個別の教科指導の充実に努め、進学就職率100%を目指す。 Ａ：100%以上　Ｂ：99～90% Ｃ：89～80%　Ｄ：79～70% Ｅ：69%以下	C	各種模試及び補習は、年間計画どおり実施し、生徒の学力向上や進路意識の高揚を図ることができた。 担任・学年団を中心に、就職指導、進学指導において、個に応じた指導を行うことができた。 今後、大学受験・就職試験を控えている生徒もおり、進学就職率は82%であった。卒業時点で進路先が未決定の生徒に対しては、指導・サポートを継続的に実施する。	教科指導・学習指導・面接指導を行う上で、教職員の業務等の関係上、個別指導の時間確保も難しくなってきている。また、特定の教員に偏るケースがあり、教員の指導を分散する対応が必要である。。 進学指導においては、グループディスカッションや小論文を課すなど、受験方法が多様化しているため、早期に生徒の特性に合った受験方法の把握や受験に対する意識を高められるような指導が望まれる。
業務改善	適切な勤務時間	月に１回程度「ノー残業デー」を設け、教職員の時間外労働の時間削減を図るとともに、業務の効率化への意識を高める。また、教職員テレワークの利用促進を図り、多様な働き方を推進する。	C	年度の途中となってしまったが、９月から月に１回の「ノー残業デー」を設定したほか、時間外労働の削減に向けて、さくら連絡網の導入、グループウェアの利点を生かした業務の効率化、テレワークによるワークライフバランスの向上を図った。	見通しを持って業務を遂行していくために、「ノー残業デー」を年間行事計画を立案する段階からを予定に組み入れる。継続して業務の効率化を図り、時間外勤務を削減する。また、教職員の健康管理に注意する。
	職場環境の整備	年休の積極的な取得を呼び掛けたり、上司に相談しやすい雰囲気を作ったりすることにより、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	C	休暇を取りやすい雰囲気づくりに努め、積極的な年休取得を促した。上司への報告・連絡・相談が円滑にできるよう、普段から声掛けを積極的に行った。	教職員の働きがい・やりがいを大切にするとともに、疲労や心理的負担の軽減につながる職場環境の改善に努め、教職員相互に相談しやすい雰囲気づくりに努める。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。